

【発行者】新潟農業普及指導センター
 新津庁舎：0250-24-9624、津川分室：0254-92-0965

早生、中生とも出穂期は「平年並」の予想！
 適期・適量の穂肥施用で、収量・品質の確保を！

－ 重点事項 －

- ◎出穂期は早生、中生とも「平年並」の見込み。
- ◎中干し終了後は、
 - ①出穂 1 か月前までは間断かん水で根の健全化を図る。
 - ②その後は徐々に飽水管理に切り替える。
- ◎早生品種は適期・適量の穂肥施用で、収量・品質を確保する。
- ◎コシヒカリは、出穂 40 日前頃にケイ酸質資材を施用し、稲体の強化を図る。

1 生育状況（6月20日現在）

〔コシヒカリ：草丈「やや短」、茎数「並」、葉数「並」、葉色「並」〕

品 種		草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD 値)
コシヒカリ (調査点数 9)	本年値平均	37	380	8.6	39.6
	目標比・差	92 %	101 %	-0.3	+0.8
こしいぶき (調査点数 3)	本年値平均	35	537	9.1	43.2
	目標比・差	99 %	114 %	0.0	+3.2
新 之 助 (調査点数 3)	本年値平均	33	352	8.3	39.7
	目標比・差	96 %	86 %	-1.2	-0.3

2 出穂期予想と穂肥時期・施用量のめやす（6月20日現在）

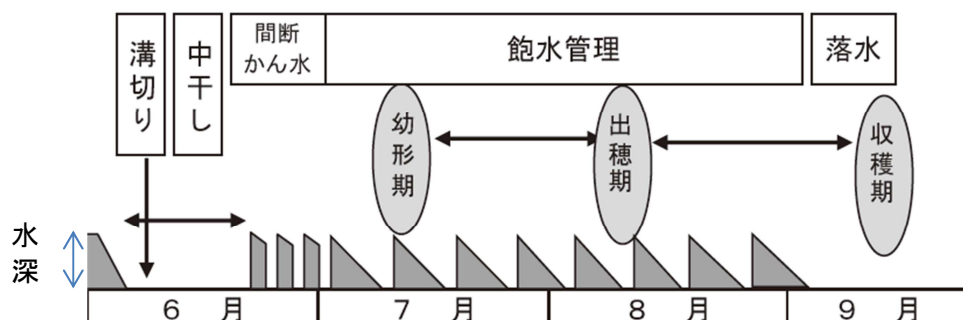
- (1) 早生品種、中生品種とも幼穂形成期及び出穂期は「平年並」と予想される。
- (2) 出穂期は気象条件で大きく変動することもあるため、今後の情報に注意する。

品種名	出穂期 予想※	穂肥散布時期(出穂期前日数)		合計窒素量 (kg/10a)	
		1回目	2回目		
早生	新潟次郎	7/20	6/25～6/27(25～23)	7/6(14)	6
	ゆきん子舞	7/26	7/1～7/3(25～23)	7/12(14)	5～7
	こしいぶき	7/27	7/4(23)	7/13(14)	2～3
	五百万石	7/23	7/3(20)	7/11(12)	1～2
	わたぼうし	7/25	7/3～7/5(22～20)	7/13～7/15(12～10)	2～3
中生	コシヒカリ	8/6	7/19～7/22(18～15)	7/27(10)	1～3
	こがねもち	8/2	7/15～7/18(18～15)	7/23(10)	1～3

※稚苗を5月5日に植えた場合

3 中干し終了後の水管理 ～間断かん水から飽水管理へ～

- (1) 中干しは、田面に小ひびが入り、軽く足跡がつく程度まで行い、遅くとも出穂の1か月前までに終了する。
- (2) 中干し直後は①出穂1か月前頃までは間断かん水を行い、②その後は、徐々に飽水管理（水がなくなったら入水を繰り返す）へ移行する。
- (3) 異常高低温時やフェーンが予想される場合は事前に速やかに湛水する。



図：中干し以降の水管理のイメージ

4 早生品種の1回目穂肥施用のポイント ～遅れず適期に施用～

- (1) 早生品種の1回目の穂肥は、収量確保のため適期〔幼穂形成期頃（幼穂長1～2mm）〕を逃さず確実に実施する。
- (2) こしいぶきは茎数が多めのほ場が多く、今後の生育によっては籾数過剰による品質低下が懸念される。生育量が以下の表より極端に大きい場合は、遅め・控えめの穂肥対応とする。

表 こしいぶきの1回目穂肥時期の生育の目安

1回目穂肥時期 (予想)	草丈 (cm)	茎数		葉色 (SPAD)
		(本/m ²)	(本/株)	
7月4日	55～60	520～540	29～30(60株植え) 34～36(50株植え)	35～37

【参考】幼穂長の確認方法

【幼穂の長さを確認する】

〈その1 カッターなどで割る〉

〈その2 葉鞘をむく〉

出穂前日数(日)	幼穂長(cm)
24	0.1
20	0.2
18	0.5～1.0
12	4.0～6.0

※ 平均的な株から最も長い茎を抜き取り測定する。数株から採取し総合的に判断する。

5 コシヒカリへのケイ酸質資材の施用 ～穂肥の前に体質強化～

出穂40日前から1回目穂肥時期までの間にケイ酸を施用することで、根の健全化により稲体活力が高まり、異常気象下でも登熟・品質向上が期待できる。

※フェーンや強風時には湛水しましょう！～气象台の情報を留意してください～